

州												
東 榮 社		賀 佐			昭 榮 製 糸		八 屋 製 糸 所		明 治 工 紡 場 類		岡 部 鐵 工 所	
東 榮 社	東 榮 社	日 濱 鐵 業 所	日 濱 鐵 業 所	基 山 製 糸 所	二 日 市 工 場 糸	八 屋 製 糸 所	行 明 橋 工 紡 場 類	行 明 橋 工 紡 場 類	行 明 橋 工 紡 場 類	岡 部 鐵 工 所	岡 部 鐵 工 所	岡 部 鐵 工 所
①	①	⑦	⑦	①	①	①	①	①	①	②	②	②
直 營	直 營	直 營	直 營	直 營	直 營	直 營	直 營	直 營	直 營	直 營	直 營	直 營
米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米
長 崎 縣	長 崎 縣	佐 賀 縣	佐 賀 縣	佐 賀 縣	熊 本 縣	福 岡 縣	京 都 府	山 口 縣	大 分 縣	熊 本 縣	福 岡 縣	福 岡 縣
親 愛	神 力	神 力	神 力	旭 麥	旭	旭	不 明	不 明	不 明	新 陸	旭	旭
昭 和 年	昭 和 年	昭 和 年	昭 和 年	昭 和 年	昭 和 年	昭 和 年	昭 和 年	昭 和 年	昭 和 年	昭 和 年	昭 和 年	昭 和 年
四 割	六 割	三 割	三 割	一 割	不 明	二 割	三 割	三 割	三 割	不 明	三 割	三 割
無 砂	無 砂	無 砂	無 砂	無 砂	無 砂	無 砂	無 砂	無 砂	無 砂	無 砂	無 砂	無 砂
中 下	中 下	中	中	中 下	弱	中	中 上	中 下	中 下	中 下	中 下	中 下
搗 九 米 分	搗 九 米 分	搗 八 米 分	搗 八 米 分	搗 八 米 分	搗 八 米 分	搗 八 米 分	搗 八 米 分	搗 八 米 分	搗 八 米 分	搗 七 米 分	搗 九 米 分	搗 九 米 分
一〇	一五	三三	八	三〇	二六	三	一	三	三	五	三	三
三三・六	一〇・九	二二・八	二二・七	二〇・八	二二・六	三三・四	二二・三	二二・三	二二・三	三三・五	二二・八	二二・八
一三八・〇	一四八・八	一四六・〇	一四六・〇	一四四・六	一三八・五	一四三・〇	九二・四	一四三・七	一四三・七	一三九・〇	一四三・六	一四三・六
三三・九	四七・〇	三三・九	三三・九	四九・〇	三三・六	三三・三	三三・三	四〇・〇	四〇・〇	四八・六	四八・六	四八・六
三	五	一	九	四	一	三	三	一	一	〇	一	一
不 適	不 適	適	不 適	不 適	不 適	適	不 適	不 適	不 適	適	不 適	不 適
					古 米 混 用			古 米 混 用				

九											
岡		福				知		高		區 地	
上 日 山 本 炭 炭 坑 炭	上 日 山 本 炭 炭 坑 炭	日 華 鐵 工 業 株 式 會 社	日 華 鐵 工 業 株 式 會 社	日 華 鐵 工 業 株 式 會 社	日 華 鐵 工 業 株 式 會 社	日 華 鐵 工 業 株 式 會 社	日 華 鐵 工 業 株 式 會 社	日 華 鐵 工 業 株 式 會 社	日 華 鐵 工 業 株 式 會 社	日 華 鐵 工 業 株 式 會 社	日 華 鐵 工 業 株 式 會 社
⑦	⑦	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③
直 營	直 營	直 營	直 營	直 營	直 營	直 營	直 營	直 營	直 營	直 營	直 營
米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米
米 炭	米 炭	米 炭	米 炭	米 炭	米 炭	米 炭	米 炭	米 炭	米 炭	米 炭	米 炭
中 下	中 下	中 下	中 下	中 下	中 下	中 下	中 下	中 下	中 下	中 下	中 下
搗 九 米 分	搗 九 米 分	搗 九 米 分	搗 九 米 分	搗 九 米 分	搗 九 米 分	搗 九 米 分	搗 九 米 分	搗 九 米 分	搗 九 米 分	搗 九 米 分	搗 九 米 分
二	四	七	一	三	三	三	三	三	三	三	三
一九・八	二二・八	二二・三	二二・三	二二・三	二二・三	二二・三	二二・三	二二・三	二二・三	二二・三	二二・三
一四四・七	一四四・七	一四四・七	一四四・七	一四四・七	一四四・七	一四四・七	一四四・七	一四四・七	一四四・七	一四四・七	一四四・七
三三・〇	三三・〇	三三・〇	三三・〇	三三・〇	三三・〇	三三・〇	三三・〇	三三・〇	三三・〇	三三・〇	三三・〇
一〇	一四	七	三	三	三	三	三	三	三	三	三
同	不 適	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

大				本			
分	大	分	大	分	大	分	大
株出水製米	高野自動車部	株日本人造羊毛	三榮社	株熊本製米	田東浦電場	一瀧製米場	日曹人製米
①	⑧	③	①	①	⑤	①	③
直管	直管	直管	直管	直管	直管	直管	直管
麥大分縣	麥大分縣	麥大分縣	麥大分縣	麥大分縣	麥大分縣	麥大分縣	麥大分縣
大分三井	大分	大分	大分	大分	大分	大分	大分
昭和十三年	昭和十三年	昭和十三年	昭和十三年	昭和十三年	昭和十三年	昭和十三年	昭和十三年
二・四割	二・四割	三・七割	同	三・七割	三・七割	三・七割	三・七割
無砂	無砂	無砂	無砂	無砂	無砂	無砂	無砂
弱	中	弱	弱	中	弱	中	中
押搦	搦七	搦九	搦八	搦八	搦七	搦七	搦九
米分	米分	米分	米分	米分	米分	米分	米分
五	〇	三	三	三	三	三	三
二・三・五	二・三・五	二・三・五	二・三・五	二・三・五	二・三・五	二・三・五	二・三・五
八・九・一	一四・五・六	一四・五・六	一四・五・六	一四・五・六	一四・五・六	一四・五・六	一四・五・六
四・九・二	二・九・三	三・八・〇	三・七・一	三・八・〇	三・七・一	三・八・〇	三・七・一
四	四	三	三	三	三	三	三
不適	不適	不適	不適	不適	不適	不適	不適
適	適	適	適	適	適	適	適
		古米使用					古米使用

及								區地	
熊		時						長	
熊肥本製米	株城北製米	協管製米所	合山下製米	神代製米場	雲長仙崎製米	島長原製米	陳長早製米	工場名	名縣府廳
①	①	①	①	①	①	①	①		
直管	直管	直管	直管	直管	直管	直管	直管		
麥同	麥同	麥同	麥同	麥同	麥同	麥同	麥同		
混合種	旭	蓬萊	神力	不明	肥後	神力	旭		
昭和十三年	昭和十三年	昭和十三年	昭和十三年	昭和十三年	昭和十三年	昭和十三年	昭和十三年		
二	三	三	三	三	三	三	三		
割	割	割	割	割	割	割	割		
無砂	無砂	無砂	無砂	無砂	無砂	無砂	無砂		
中	中	中	中	中	中	中	中		
押搦	搦七	搦七	搦八	搦九	搦八	搦七	搦七		
米分	米分	米分	米分	米分	米分	米分	米分		
六	三	三	二	二	二	二	二		
三・三・八	三・三・八	三・三・八	三・三・八	三・三・八	三・三・八	三・三・八	三・三・八		
八・八・一	一三・二・六	一三・二・六	一四・〇・六	一三・三・六	一三・三・六	一三・三・六	一三・三・六		
四・九・六	四・八・六	四・八・六	三・九・八	四・七・六	四・七・六	四・七・六	四・七・六		
一	一	一	一	一	一	一	一		
不適	適	適	不適	不適	不適	良	適		
古米混用			古米使用						

沖繩									
總沖									島
嘉手納製糖工場	瑞泉社	南南凡海坂炭坑	星岡鐵業所	丸南海野炭坑	吉南海炭業所	崎南海炭坑	丸三礦業所	購買信用組合	川邊製米所
④	①	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	①	①
直轄	直轄	直轄	直轄	直轄	直轄	直轄	直轄	直轄	直轄
米	米	米	米	米	米	米	米	米	米
兵庫縣	兵庫縣	兵庫縣	兵庫縣	兵庫縣	兵庫縣	兵庫縣	兵庫縣	鹿兒島	鹿兒島
蓬萊	蓬萊	蓬萊	蓬萊	蓬萊	蓬萊	蓬萊	蓬萊	旭	旭
昭和三十四年	昭和三十四年	昭和三十四年	昭和三十四年	昭和三十四年	昭和三十四年	昭和三十四年	昭和三十四年	昭和三十四年	昭和三十四年
二	八	四	六	三	七	三	七	三	七
割	割	割	割	割	割	割	割	割	割
混砂	混砂	混砂	混砂	混砂	混砂	混砂	混砂	混砂	混砂
弱	弱	弱	弱	弱	弱	弱	弱	中	中
精白米	精白米	精白米	精白米	精白米	精白米	精白米	精白米	精白米	精白米
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
一九二七	一九二七	一九二七	一九二七	一九二七	一九二七	一九二七	一九二七	一九二七	一九二七
一四六・三	一四三・五	一四〇・〇	一三三・〇	一三〇・一	一二七・七	一二四・三	一二一・〇	一〇九・八	一〇六・五
五・六	五・三	六・五	六・六	六・四	六・〇	五・七	五・四	四・〇	三・八
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
不適	不適	不適	不適	不適	不適	不適	不適	不適	不適
		百米使用	百米使用						

九州										
鹿							宮			地
川旭	鹿	北	片	野	宮	大	中	工	名	
旭	鹿	北	片	野	宮	大	中	工	名	
①	①	①	①	①	①	⑥	②	①	①	
直轄	直轄	直轄	直轄	直轄	直轄	直轄	直轄	直轄	直轄	
米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	
鹿	鹿	宮	宮	宮	宮	大	大	大	大	
旭	鹿	宮	宮	宮	宮	大	大	大	大	
昭和三十四年	昭和三十四年	昭和三十四年	昭和三十四年	昭和三十四年	昭和三十四年	昭和三十四年	昭和三十四年	昭和三十四年	昭和三十四年	
二	七	二	三	三	三	三	二	二	二	
割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	
混砂	混砂	混砂	混砂	混砂	混砂	混砂	混砂	混砂	混砂	
中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	
精白米	精白米	精白米	精白米	精白米	精白米	精白米	精白米	精白米	精白米	
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
一九二七	一九二七	一九二七	一九二七	一九二七	一九二七	一九二七	一九二七	一九二七	一九二七	
一〇〇・二	一〇〇・二	一〇〇・二	一〇〇・二	一〇〇・二	一〇〇・二	一〇〇・二	一〇〇・二	一〇〇・二	一〇〇・二	
五・六	五・六	五・六	五・六	五・六	五・六	五・六	五・六	五・六	五・六	
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
不適	不適	不適	不適	不適	不適	不適	不適	不適	不適	

三、主食品見本採取工場、事業場二九四個所中、米のみ使用するものは一八六個所（六三・三％）、米麥混合して使用するものは一〇八個所三六、七であつて、麥飯を使用するものは總數の約四割に相當することを知つた。其の麥飯の麥混合割合は、平均二・三割で最大は六・〇割、最小は〇・六割であつた。

四、米の新古は、新米使用二四五個所（八三・三％）、古米使用四九個所（一六・七％）にて、二割弱に於て古米を使用する工場、事業場のあることを知つた。

五、混砂の有無は、混砂米三六種（一一・六％）、無砂米二七四種（八八・四％）にて、無砂搗精米が検査工場事業場に於ては相當廣く普及してゐることを知つた。

六、活性度は、米に就ては強なく、中等度二一〇種（六七・七％）、弱乃至微弱一〇〇種（三二・三％）にて、判定「中の上」を示し活性度割合高き米は不完全搗精の新米に多く、活性度微弱を示す米は混砂精白の古米に多きを見た。特に生産年度古き所謂政府拂下米にありては、其れが不完全搗精の場合でも其の活性度の低下は著しきものあるを認めた。

麥の活性度は、強一種（一・〇％）、中等度五六種（五二・八％）、弱乃至微弱四九種（四六・二％）にて、活性度高きものは餘り加工せざる丸麥に多く、活性度微弱なるものは一合重量の軽い押麥に多かつた。

七、米の精白度は、精白米一一九種（三八・四％）、不完全搗精米一九一種（六一・六％）にて、後者の内譯は玄米一種（〇・三％）、七分搗以上五分搗四六種（一四・八％）であつて脚氣豫防上精白度の適當と認められるものは全検査主食米の僅かに一五・〇％に過ぎなかつた。

八、米の胚子殘存率は、平均二一・五％（玄米を除き最大九二・八％、最少〇％）にて、一般優良胚芽米（胚子殘存率六〇％以上）と認むべきものは二六種にて重に七分搗米以上五分搗米に多く總數の僅かに八・四％に過ぎないことを知つた。

第十一表

健康保険脚氣調査に於ける主食品見本検査成績總括表

(昭和十四年度)

項 目 地 區 名	調 査 工 場 数											米 麥 別 数			米 有 無	混 砂	活 性 度	精 白 度	胚 子 率 (%)	千粒重(瓦)			一合重(瓦)			兩度(瓦)			碎米率(%)			見本別主食品批評				工場別主食品批評																																													
	炊事附種別			米麥使用別			米ノ新古別		米	麥	計	米	麥	計						無	混	中 上 中 下	至 5 分 搗 米	5~7 分 搗 米	7~9 分 搗 米	精 白 米	最 大	最 小	平 均	最 大	最 小	平 均	最 大	最 小	平 均	最 大	最 小	平 均	最 大	最 小	平 均	良	適	不 適	計	良	適	不 適	計																																
	直 營	共 同 炊 事	附 負	米 ノ ミ 使 用	米 麥 混 用	麥混合割合																																												新 米 使 用	古 米 使 用	無	混	中 上 中 下	至 5 分 搗 米	5~7 分 搗 米	7~9 分 搗 米	精 白 米	最 大	最 小	平 均	最 大	最 小	平 均	最 大	最 小	平 均	最 大	最 小	平 均	最 大	最 小	平 均	良	適	不 適	計	良	適	不 適	計
						最 大 割	最 小 割	平 均 割																																																																									
北海道區	12	8	—	4	10	2	3.0	1.0	2.0	12	—	12	2	14	米	12	—	—	11	1	—	—	3	0	2.6	22.08	19.09	20.93	145.2	138.1	143.0	9.2	3.2	5.9	18	4	9	—	—	12	12	—	—	12	12																																				
東北區	13	10	2	1	6	7	4.0	1.0	2.8	10	3	13	7	20	米	11	2	—	0	4	—	1	5	7	83	0	22.0	23.13	19.51	21.15	145.3	134.6	142.7	9.0	2.5	6.1	14	1	5	—	3	10	13	—	3	10	13																																		
關東區	75	58	11	6	65	10	3.0	0.6	1.7	70	5	76	10	86	米	75	1	—	65	10	—	17	37	22	89	0	26.1	23.47	15.92	21.13	146.0	134.1	142.4	11.2	2.5	6.4	31	1	7	15	13	48	76	15	12	48	75																																		
北陸區	21	15	6	—	8	13	3.0	1.0	1.8	20	1	22	13	35	米	22	—	—	20	2	—	4	13	5	93	1	24.8	21.52	16.45	19.30	144.3	135.4	141.3	9.2	2.7	6.3	23	1	6	4	5	13	22	4	5	12	21																																		
東山區	20	17	3	—	9	11	6.0	1.0	2.3	18	2	21	11	32	米	14	7	—	11	10	—	8	13	61	0	17.4	23.26	18.37	20.62	147.1	140.2	144.5	10.0	2.0	6.0	45	1	11	—	—	21	21	—	—	20	20																																			
東海區	28	25	2	1	12	16	5.0	1.0	2.0	17	11	31	16	47	米	26	5	—	15	16	—	5	10	16	85	0	21.0	23.63	19.00	21.30	149.6	137.7	141.0	10.8	2.6	6.5	22	1	8	2	1	28	31	2	1	25	28																																		
近畿區	42	33	6	3	34	8	3.0	1.0	2.0	33	0	47	8	55	米	44	3	—	36	11	1	6	29	11	100	0	20.2	24.09	16.62	20.91	149.6	137.0	143.2	10.4	2.1	6.4	31	1	7	3	4	40	47	2	5	35	42																																		
中國區	14	13	1	—	11	3	3.1	1.5	2.2	13	1	15	3	18	米	12	3	—	4	11	—	1	6	8	80	0	29.5	25.33	19.03	21.74	145.5	137.0	141.2	11.0	2.4	6.5	6	1	3	1	1	13	15	1	1	12	14																																		
四國區	22	19	3	—	13	9	3.0	1.0	1.8	14	8	22	7	29	米	18	4	—	7	15	—	3	0	10	93	0	19.4	23.32	20.52	21.70	145.4	135.7	141.6	10.7	2.3	6.5	15	1	7	1	—	21	22	—	1	21	22																																		
九州及 神戶區	47	46	—	1	18	29	5.0	1.0	2.9	38	9	51	29	80	米	40	11	—	31	20	—	0	24	18	71	0	20.2	23.19	14.22	21.20	147.8	135.1	141.6	10.2	2.7	6.4	31	1	9	3	5	43	51	2	6	39	47																																		
計又平均 (%)	294	244 (83.0)	34 (11.6)	16 (5.4)	186 (63.3)	103 (36.7)	6.0	0.6	2.3	245 (83.5)	49 (16.7)	310	106	416	米	274	36	—	210	100	—	1	46	144	119	100	0	21.5	25.33	14.22	20.86	149.6	134.1	142.4	11.2	2.0	6.3	45	0	7	29	32	249	310	26 (8.8)	34 (11.6)	234 (79.6)	294 (100.0)																																	

九、工場、事業場別主食品概評を脚氣豫防の見地より（副食物を除外して）総合的に判定を下して見ると、良二六個所（八・八％）、適三四個所（一一・六％）、不適二三個所（七九・六％）であつて、主食品見本採取工場・事業場の分布は、北海道區（二〇〇％）、東山區（二〇〇％）、四國區（九五・五％）、東海區（八九・三％）、中國區（八五・八％）、近畿區（八三・三％）、九州及沖繩區（八三・〇％）にて總平均值七九・六％より悪く、東北區（七七・〇％）、關東區（六四・〇％）、北陸區（五一・二％）は逆に總平均值より良好となつてゐることを知り得た。

第二節 主食米の適否と脚氣罹患率に關する地區別觀察

主食品見本採取工場、事業場二九四個所に於ける主食品の適否と脚氣罹患率との關係を、地區別に體性、症狀を加へて總括的に比較すれば第十二表（詳報）の如くである。

同表に就いて先づ男女計全地區總計の數値を通覽すれば、脚氣罹患率は主食品良の工場・事業場九・六％、同じく適の工場・事業場二二・七％、同じく不適の工場・事業場一三・四％にて、總括的に主食品概評の良なる工場・事業場に於て著しく低率なるを見ることが出来る。更にこれ等の關係を男女別に全地區總計で見ると、男子に於ては良のもの七・二％、適のもの八・五％、不適のもの一一・〇％にて、主食品の良及び適の工場・事業場に於て相當低率なるを示してゐる。女子に於ては良のもの一一・三％、適のもの一五・五％、不適のもの一四・九％にて、主食品の良なる工場・事業場が他のものより著しく低率を示してゐる。

更にこれ等の關係を地區別に男女計に就て比較すべき概評部類を有するものに就て觀察して見ると次の如くである。東北區は、適のもの八・八％、不適のもの一七・二％にて、適のものが著しく低率を示してゐる。關東區は、良のもの

八・一%、適のもの八・五%、不適のもの一三・三%にて、良及び適のものが低率である。北陸區は、良のもの九・三%、適のもの六・八%、不適のもの一四・一%にて、良及び適のものに於て著しく低率である。東海區は、良のもの二・四%、適のもの一六・五%、不適のもの一三・三%にて、良及び不適のものの方が適のものより低率を示し不規則になつてゐる。その原因に就ては後述の如く食餌以外に通勤關係、男女の比率等が作用してゐることが想定される。近畿區は、良のもの一一・九%、適のもの八・五%、不適のもの一一・二%にて、適のものが低率となつてゐる。中國區は、良のもの八・四%、適のもの三六・〇%、不適のもの一七・〇%にて、良のものは著しく低率であるが適のものが相當高率に現れ、不適は高率となつてゐる。四國區は、適のもの一五・九%、不適のもの二一・六%で、總平均通り適に低く不適に著しい高率を現してゐる。九州及沖繩區は、良のもの九・五%、適のもの二四・三%、不適のもの一五・〇%にて、良のものは著しく低率であるが適のものに高率が現れてゐる、不適のものは相當高率を示してゐる。

然し乍ら此處で注目すべきは、不適のものゝみを有する北海道區の男女計脚氣罹患率が五・一%であり、同じ條件の東山區が五・三%であつて、良及び適のものなきに不拘、爾餘の地區の良なるものゝ罹患率より更に低率を示してゐることゝである。このことは勿論氣候地區的影響の大であることを示す一例證であるが、更に前述の如く主食品の概評と脚氣罹患率の高低とが規則正しく一致してゐない地區のあるのは、第十二表集計の被調査者が地區別に通勤關係並に男女構成人員に於て相當の開きを有するために生じて來てゐるとも考へられる。仍つて次の第三節に於て主食品を異にする寄宿工・通勤工別の罹患状況を觀察して見たいと思ふ。

第三節 主食品の適否と脚氣罹患率に關する通勤關係別觀察

前述の理由に依り検査主食品を主に常用する寄宿工と然らざる通勤工との間に脚氣罹患率の差異の生ずべきことは當

食 主

工場数	検査人員	症 状 別		
		重症	中等症	輕症
—	—	—	—	—
2	130	—	—	—
2	325	—	—	1
3	455	—	—	1
11	655	—	—	—
9	977	—	—	—
12	1,632	—	—	—
5	408	—	—	—
4	554	—	—	2
5	962	—	—	2
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
1	27	—	—	—
1	112	—	—	—
1	139	—	—	—
5	554	—	—	1
5	512	—	—	5
5	1,066	—	—	7
1	107	—	—	1
1	57	—	—	2
1	164	—	—	3
1	115	—	—	—
1	11	—	—	—
1	126	—	—	1
5	309	—	—	2
5	895	—	—	6
6	1,204	—	—	6
31	2,305	—	—	2
28	3,443	—	—	11
34	5,748	—	—	13

第十二表

主食米概評別脚氣罹患率表

(詳報)

(地區別發表)

概評別 地區名	性別	良							適							不適							合計						
		工場数	検査人員	症狀別罹患人員				罹患率 (%)	工場数	検査人員	症狀別罹患人員				罹患率 (%)	工場数	検査人員	症狀別罹患人員				罹患率 (%)							
				重症	中等症	輕症	潜在性				計	重症	中等症	輕症				潜在性	計	重症	中等症		輕症	潜在性	計				
北海道	男女計	12	692	—	4	22	12	38	5.5	12	692	—	4	22	12	38	5.5	12	692	—	4	22	12	38	5.5				
	男女計	7	50	—	—	—	—	—	—	7	50	—	—	—	—	—	—	—	7	50	—	—	—	—	—				
東北區	男女計	2	130	—	—	10	4	14	10.8	10	551	—	1	22	19	42	7.6	12	681	—	1	32	23	56	8.2				
	男女計	2	325	—	—	1	23	2	26	8.0	10	1,197	—	18	132	108	259	21.6	12	1,522	—	19	155	110	285	18.7			
關東區	男女計	3	455	—	—	1	33	6	40	8.8	10	1,748	—	19	154	127	301	17.2	13	2,203	—	20	187	133	341	15.5			
	男女計	13	895	—	1	26	32	59	6.6	11	655	—	—	15	32	47	7.2	48	3,080	—	6	147	174	327	10.6				
北陸區	男女計	9	977	—	—	—	58	34	92	9.4	43	3,763	—	17	374	191	582	15.5	61	5,347	—	17	476	243	736	13.8			
	男女計	15	1,502	—	1	70	50	121	8.1	12	1,632	—	—	73	66	139	8.5	48	6,843	—	23	521	365	909	13.3				
東山區	男女計	4	129	—	—	1	4	5	2.9	5	408	—	—	15	10	25	6.1	10	774	—	—	—	22	40	62	8.0			
	男女計	4	577	—	—	1	25	35	61	10.6	4	554	—	—	2	13	25	40	7.2	11	1,640	—	5	176	92	279	17.0		
東海區	男女計	4	706	—	—	1	26	39	66	9.3	5	962	—	—	2	29	35	65	6.8	12	2,414	—	5	195	139	341	14.1		
	男女計	2	370	—	1	46	1	48	13.0	1	27	—	—	—	—	—	—	—	2	477	—	—	—	8	21	29	6.1		
近畿區	男女計	2	120	—	2	11	—	13	10.8	1	112	—	—	20	3	23	20.5	25	2,425	—	3	54	67	124	5.1				
	男女計	2	490	—	3	57	1	61	12.4	1	139	—	—	20	3	23	16.5	25	2,902	—	3	62	88	153	5.3				
中國區	男女計	1	49	—	1	2	—	3	6.1	5	554	—	1	15	6	22	4.0	35	2,911	—	5	237	62	304	10.4				
	男女計	2	539	—	3	55	9	67	12.5	5	512	—	—	58	11	69	13.5	33	2,834	—	3	285	49	337	11.9				
四國區	男女計	2	557	—	4	57	9	70	11.9	5	1,066	—	1	73	17	91	8.5	35	5,745	—	8	522	111	641	11.2				
	男女計	1	22	—	—	—	—	—	—	1	107	—	—	1	18	13	32	29.9	11	644	—	2	71	33	106	16.5			
九州及 神戶區	男女計	1	228	—	1	14	6	21	9.2	1	57	—	—	2	18	7	27	47.4	12	2,033	—	5	9	266	65	345	17.2		
	男女計	1	250	—	1	14	6	21	8.4	1	164	—	—	3	36	27	59	35.0	12	2,647	—	5	11	337	98	451	17.0		
九州及 神戶區	男女計	1	115	—	—	—	—	—	—	1	115	—	—	5	9	17	14.8	21	800	—	—	—	63	41	104	13.0			
	男女計	1	11	—	—	—	—	—	—	1	11	—	—	3	—	3	27.3	21	1,481	—	—	—	278	108	388	26.2			
九州及 神戶區	男女計	1	126	—	—	—	—	—	—	1	126	—	—	11	9	20	15.9	21	2,281	—	—	—	341	147	492	21.6			
	男女計	2	268	—	—	7	2	9	3.4	5	307	—	—	20	20	40	12.9	34	1,536	—	3	45	96	96	240	15.1			
九州及 神戶區	男女計	2	302	—	—	29	16	45	14.9	5	895	—	—	6	80	167	28.3	28	3,421	—	1	13	256	241	511	14.9			
	男女計	2	570	—	—	36	18	54	9.5	6	1,204	—	—	6	100	197	24.3	30	5,007	—	4	58	352	337	751	15.0			
合計	男	22	1,733	—	3	82	39	124	7.2	31	2,305	—	2	101	94	197	8.5	222	13,639	—	3	68	854	574	1,499	11.0			
	女	20	2,372	—	7	178	84	269	11.3	28	3,443	—	11	273	249	533	15.5	210	22,452	—	8	98	2,254	984	3,344	14.9			
合計	計	26	4,105	—	10	260	123	393	9.6	34	5,748	—	13	374	343	730	12.7	234	36,091	—	11	166	3,108	1,558	4,843	13.4			
合計	計	26	4,105	—	10	260	123	393	9.6	34	5,748	—	13	374	343	730	12.7	234	36,091	—	11	166	3,108	1,558	4,843	13.4			

第十三表(續)

主食米概評別脚氣罹患率表

(詳報)

(通勤關係別觀察)

勤務關係	業務別 (大分類)	性別	良								適								不適								合計								
			工場數	検査人員	症狀別罹患人員				罹患率 (%)	工場數	検査人員	症狀別罹患人員				罹患率 (%)	工場數	検査人員	症狀別罹患人員				罹患率 (%)	工場數	検査人員	症狀別罹患人員				罹患率 (%)					
					重症	中等症	輕症	潜在性				計	重症	中等症	輕症				潜在性	計	重症	中等症				輕症	潜在性	計	重症		中等症	輕症	潜在性	計	
																																			重症
寄	染織工場	男女計	6 7 7	55 1,034 1,143	— — —	— 1 1	93 38 93	— — —	— — —	— — —	— — —	11 12 23	12 152 259	13.5 15.7 15.5	8 8 9	130 1,650 1,810	— — —	— — —	9 22 244	13 133 146	22 391 413	15.8 22.3 22.7	21 23 24	369 4,415 4,783	— — —	— 1 1	— 26 26	20 432 452	25 323 348	45 782 827	12.2 17.7 17.3				
		機械器具工場	男女計	2 1 2	200 11 211	— — —	— — —	4 1 5	5 3 8	0 4 13	4.5 36.4 6.2	4 4 4	17 — 17	15 — 15	12.0 — 12.0	4 1 4	162 2 164	— — —	— — —	14 — 14	11 — 11	25 — 25	15.4 — 15.2	10 2 10	629 13 642	— — —	— — —	35 1 36	31 3 34	66 4 70	10.5 30.8 10.6				
			化學工場	男女計	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	4 4 9	4 5 9	6.7 41.7 12.5	2 1 2	66 21 87	— — —	— — —	7 3 10	3 3 13	10 3 13	15.2 14.3 14.9	4 2 4	126 33 159	— — —	— — —	7 7 14	7 1 8	14 8 22	11.1 24.2 13.8			
	飲食物工場	男女計	1 1	51 51	— —	— —	3 3	3 3	5.9 5.9	1 1	74 74	— —	— —	4 4	5.4 5.4	1 1	32 32	— —	— —	4 4	3 3	7 7	21.9 21.9	3 3	157 157	— —	— —	4 4	10 10	14 14	8.9 8.9				
		雜工場	男女計	1 1	2 2	— —	— —	1 1	1 1	50.0 50.0	— —	— —	— —	— —	— —	— —	9 9	— —	— —	1 1	— —	1 1	11.1 11.1	2 2	11 11	— —	— —	1 1	1 1	2 2	18.2 18.2				
			計	男女計	10 8 11	312 1,075 1,407	— — —	— — —	4 94 98	6 41 50	13 136 149	4.2 12.4 10.6	14 9 15	571 1,663 2,234	— — —	— — —	23 3 3	35 103 136	63 264 327	11.0 15.9 14.6	16 10 17	408 1,703 2,111	— — —	— — —	35 1 22	30 238 273	65 394 459	15.9 23.1 21.7	40 27 43	1,291 4,461 5,752	— — —	— 1 1	— 26 26	67 440 507	74 327 401
	通	染織工場	男女計	6 5 6	82 126 208	— — —	— — —	1 3 4	2 5 7	3 8 11	3.7 6.3 5.3	6 8 8	85 213 298	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	5 10 15	3 10 13	8 21 29	8.8 8.6 8.7	12 19 21	253 583 841	— — —	— — —	6 35 41	5 21 26	11 57 68	4.3 9.8 8.1			
機械器具工場			男女計	1 1 1	13 72 211	— — —	— — —	4 3 7	— 1 1	4 4 8	2.9 5.6 3.8	4 2 4	93 30 123	— — —	— — —	3 3 6	2 1 3	5 4 9	5.4 13.3 7.3	3 3 3	433 125 562	— — —	— — —	17 10 27	8 5 13	25 15 40	5.8 11.6 7.1	8 6 8	655 231 896	— — —	— — —	24 15 40	10 7 17	34 23 57	5.1 10.0 6.4
			化學工場	男女計	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	1 13 415	10 6 35	6.1 12.4 8.4	2 2 2	29 67 96	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	
飲食物工場		男女計	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	1 1 1	12 — 12	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	
		雜工場	男女計	1 1 1	34 11 45	— — —	— — —	2 2 4	1 — 1	3 2 5	8.8 18.2 11.1	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	
			計	男女計	8 7 8	255 205 464	— — —	— — —	7 8 15	3 6 9	10 14 24	3.9 6.7 5.2	13 12 15	452 396 848	— — —	— — —	1 38 51	7 15 20	21 51 72	4.6 12.9 8.5	12 13 14	563 633 1,201	— — —	— — —	22 4 72	14 32 46	36 87 123	6.3 13.7 10.2	33 32 37	1,275 1,239 2,513	— — —	— — —	42 97 139	24 51 75	67 152 219

第十三表(註)

主食米概評別脚氣罹患率表

(詳報)

(通勤關係別觀察)

勤務關係	業務別 (大分類)	性別	良								適								不適								合計							
			工場數	検査人員	症狀別罹患人員					罹患率 (%)	工場數	検査人員	症狀別罹患人員					罹患率 (%)	工場數	検査人員	症狀別罹患人員					罹患率 (%)								
					重症	中等症	輕症	潜在性	計				重症	中等症	輕症	潜在性	計				重症	中等症	輕症	潜在性	計		重症	中等症	輕症	潜在性	計			
(寄宿工、通勤工)	染織工場	男女計	6	141	—	—	1	2	3	2.1	7	255	—	—	11	12	23	9.0	8	230	—	—	14	16	30	13.0	21	626	—	—	26	30	56	8.9
		男女計	7	1,210	—	1	96	43	140	11.6	8	1,864	—	3	126	158	287	15.4	9	1,924	1	23	245	143	412	21.4	24	4,998	1	27	457	344	839	16.7
		男女計	7	1,351	—	1	97	45	143	10.6	8	2,119	—	3	137	170	310	14.6	9	2,154	1	23	259	159	442	20.5	24	5,624	1	27	493	374	895	15.9
	機械器具工場	男女計	1	33	—	—	8	5	13	3.8	4	360	—	—	20	17	37	10.3	4	595	—	—	31	19	50	8.4	9	1,294	—	—	59	41	100	7.7
		男女計	1	83	—	—	4	4	8	9.6	2	30	—	—	3	1	4	13.3	3	131	—	—	10	5	15	11.5	6	244	—	—	17	10	27	11.1
	化學工場	男女計	—	—	—	—	—	—	—	—	2	322	—	1	10	9	20	6.2	2	95	—	—	7	3	10	10.5	4	417	—	1	17	12	30	7.2
		男女計	—	—	—	—	—	—	—	—	2	165	—	—	17	7	24	14.5	2	88	—	—	8	—	9	10.2	4	253	—	—	25	8	33	13.0
	飲食工場	男女計	1	51	—	—	—	3	3	5.9	1	86	—	—	—	4	4	4.7	1	32	—	—	4	3	7	21.9	3	169	—	—	4	10	14	8.3
		男女計	1	51	—	—	—	3	3	5.9	1	86	—	—	—	4	4	4.7	1	167	—	2	24	14	40	24.0	1	167	—	2	24	14	40	24.0
	雜工場	男女計	1	36	—	—	2	2	4	11.1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	24	—	—	1	3	4	16.7	2	60	—	—	3	5	8	13.3
		男女計	1	11	—	—	2	—	2	18.2	—	—	—	—	—	—	—	—	1	26	—	1	2	2	5	19.2	2	37	—	—	1	4	2	7
	合計	男女計	9	567	—	—	11	12	23	4.1	14	1,023	—	1	41	42	84	8.2	16	976	—	—	57	44	101	10.3	30	2,566	—	1	109	98	208	8.1
男女計		9	1,304	—	1	102	47	150	11.5	12	2,059	—	3	146	166	315	15.3	16	2,336	1	26	289	165	481	20.6	37	5,699	1	30	537	378	946	16.6	
	男女計	11	1,871	—	1	113	59	173	9.2	15	3,082	—	4	187	208	399	12.9	17	3,312	1	26	346	209	582	17.6	43	8,265	1	31	646	476	1,154	14.0	

然のことにて、兩者の比較を試みると同時に、寄宿工のみに就いて更に其の主食品の適否に應じて脚氣發生狀況を考察するの必要なるを知り得る。故にこれ等主食品概評別に任意抽出法を用ひて、業務大分類別に脚氣罹患率を一括比較すれば第十三表の如くである。同表に依れば任意抽出工場四三個所の總脚氣罹患率(詳報)は一四・〇%にて、これに對し通勤工は八・七%、寄宿工は一六・三%を示し、寄宿工は通勤工より約一・九倍高率であることを知りうる。これ等の關係は男子に於ては通勤工五・三%、寄宿工一〇・九%にて約二・一倍に當り、女子に於ては通勤工一二・三%、寄宿工一七・八%にて約一・五倍寄宿工の方が高率となつてゐる。

更に寄宿工に就て主食品概評別に各工場の脚氣罹患率を比較考察すれば次の如くである。即ち男女計總脚氣罹患率は良工場は一〇・六%、適工場一四・六%、不適工場二一・七%にて、主食品概評良なる工場寄宿工の脚氣罹患率は著しく低率で、適なるもの、約三分の二、不適なるもの、約二分の一以下なることを知り得た、これ等の關係を男女別に觀察して見ると、男子にては良工場四・二%、適工場一一・〇%、不適工場一五・九%にて更に良工場が低率なるを示し、女子に於ては良工場一一・四%、適工場一五・九%、不適工場二三・一%にて主食品不適工場の脚氣罹患率が著しく高率であることが特に顯著に目立つてくる。又これ等の關係を業務別に見れば、男女計罹患率に於て染織工場は良二・五%、適一五・五%、不適二二・七%にて、良のもの低率に不適のものは著しく高率となつてゐる。機械器具工場は良六・二%、適一二・〇%、不適一五・二%にて、良に低率にて不適に高率に現れてゐる。化學工場は適一二・五%、不適一四・九%にて不適が高率を示してゐる。飲食物工場は良五・九%、適五・四%、不適二一・九%にて、良及び適が低率で不適が著しく高率を示してゐる。雜工場は検査人員僅少なればこの種考察より除外する。

尙ほ、この任意抽出法に於ける通勤工の男女計脚氣罹患率が、良五・二%、適八・五%、不適一〇・二%にて、寄宿工に於ける觀察と同様主食品概評良及び適の工場にて相當低く不適の工場にて高率を示してゐることは興味ある事實で

地区名	新古別 項目	古						
		工場数	検査人員	症状別罹患				
				重症	中等症	軽症	潜在	
北海道区	男女計	—	—	—	—	—	—	—
東北區	男女計	3	51	—	—	—	3	—
	男女計	3	624	1	16	—	102	—
關東區	男女計	3	675	1	16	—	105	—
	男女計	5	294	—	—	—	8	—
關東區	男女計	5	509	—	—	—	84	—
	男女計	5	803	—	—	—	92	—
北陸區	男女計	1	291	—	—	—	4	—
	男女計	1	56	—	—	—	1	—
東山區	男女計	1	347	—	—	—	5	—
	男女計	2	21	—	—	—	—	—
東山區	男女計	2	95	—	—	—	1	—
	男女計	2	116	—	—	—	1	—
東海區	男女計	11	345	—	—	—	24	—
	男女計	11	1,436	—	—	—	168	—
東海區	男女計	11	1,781	—	—	—	192	—
	男女計	9	689	—	—	—	80	—
近畿區	男女計	9	730	—	—	—	77	—
	男女計	9	1,419	—	—	—	157	—
中國區	男女計	1	26	—	—	—	3	—
	男女計	1	112	—	—	—	18	—
中國區	男女計	1	138	—	—	—	21	—
	男女計	8	138	—	—	—	32	—
四國區	男女計	8	613	—	—	—	200	—
	男女計	8	751	—	—	—	232	—
九州及沖繩區	男女計	5	343	—	—	—	24	—
	男女計	7	591	1	4	—	22	—
九州及沖繩區	男女計	9	934	1	6	—	45	—
	男	45	2,198	—	4	—	178	—
合計	女	47	4,766	2	40	—	673	2
	計	49	6,964	2	44	—	851	3

ある。其の原因に就ては種々検討を要するところなるも、勞務管理上の優劣等も多分に影響を與へてゐるものと思考される。

第四節 主食米の新古と脚氣罹患率との關係に就て

最後に主食米見本採取工場二九四個所に於ける主食米の新古別による脚氣罹患率を、地區、症狀、體性別に整理集計すれば第十四表(詳報)の如くである。同表に依れば新米(前年度産米)使用工場・事業場は二四五個所(八三・三%)、古米使用のものは四九個所(一六・七%)にて、主食品検査工場・事業場の大約二割弱が古米を使用してゐる現況である。地區的に古米使用は、東海區、近畿區、四國區、九州及沖繩區等に於て多き傾向を示してゐる。特に前掲諸地區に於ける共同炊事にて古米を使用するものゝ多いことは、種々の意味に於て注目し値することである。

次に主食米の新古と其の工場・事業場の男女計脚氣罹患率を通覽して見ると、新米使用のものは二二・一%、古米使用のものは一七・七%にて、總括的に觀察しても新米使用のものゝ方が相當脚氣發生の少いこと窺知することが出来る。更にこれ等の關係を男女別に見れば、男子にては新米使用一〇・一%、古米使用二二・〇%にて、新米使用のものゝ方がやゝ低率を示してゐる。同じく女子に於ては新米使用一三・五%、古米使用二〇・四%にて、新米使用のものゝ方が著しく低率なることを示してゐる。

使用主食米の新古と脚氣罹患率の高低を男女計にて地區的に觀察して見ると、東北區は新米使用八・七%、古米使用三〇・八%にて、古米使用のものゝ方が著しい高率が目立つ。關東區は新米使用一一・一%、古米使用一九・一%にて、新米使用のものゝ方が低率である。北陸區は新米使用一二・三%、古米使用三・五%にて反對の結果を示してゐる。又東山區は新米使用五・三%、古米使用五・二%にて兩者の間に差を見ない。東海區は新米使用一三・六%、古米使用一

第十四表 主食米新古別脚氣罹患率表 (詳報)

地區名	項目	古 米							新 米							計									
		工場數	検査人員	症狀別罹患人員				罹患率 (%)	工場數	検査人員	症狀別罹患人員				罹患率 (%)	工場數	検査人員	症狀別罹患人員				罹患率 (%)			
				重症	中等症	輕症	潜在性				計	重症	中等症	輕症				潜在性	計	重症	中等症		輕症	潜在性	計
北海禮區	男女計	—	—	—	—	—	—	—	12	692	—	4	22	12	38	5.5	12	692	—	4	22	12	38	5.5	
	男	—	—	—	—	—	—	—	7	50	—	—	—	—	—	—	7	50	—	—	—	—	—	—	
	女	—	—	—	—	—	—	—	12	742	—	4	22	12	38	5.1	12	742	—	4	22	12	38	5.1	
東北區	男女計	3	51	—	—	3	6	9	17.6	9	630	—	1	29	17	47	7.5	12	681	—	1	32	23	56	8.2
	男	3	624	1	16	102	80	199	31.9	9	898	—	3	53	30	86	9.6	12	1,522	1	19	155	110	285	18.7
	女	3	675	1	16	105	86	208	30.8	10	1,528	—	4	82	47	133	8.7	13	2,203	1	20	187	133	341	15.5
關東區	男女計	5	294	—	—	8	13	21	7.1	64	4,336	—	7	180	225	412	9.5	60	4,630	—	7	188	238	433	9.4
	男	5	509	—	6	84	42	132	25.9	56	4,838	—	11	392	201	604	12.5	61	5,347	—	17	476	243	736	13.8
	女	5	803	—	6	92	55	153	19.1	70	9,174	—	18	572	426	1,016	11.1	75	9,977	—	24	664	481	1,169	11.7
北陸區	男女計	1	291	—	—	4	5	9	3.1	18	1,020	—	—	34	49	83	8.1	19	1,311	—	—	38	54	92	7.0
	男	1	56	—	—	1	2	3	5.4	18	2,715	—	8	213	156	377	13.9	19	2,771	—	8	214	158	380	13.7
	女	1	347	—	—	5	7	12	3.5	20	3,735	—	8	247	205	460	12.3	21	4,082	—	8	252	212	472	11.6
東山區	男女計	2	21	—	—	—	—	—	—	18	456	—	—	8	21	29	6.3	20	477	—	—	8	21	29	6.1
	男	2	95	—	1	1	4	6	6.3	18	2,330	—	2	53	63	118	5.1	20	2,425	—	3	54	67	124	5.1
	女	2	116	—	1	1	4	6	5.2	18	2,786	—	2	61	84	147	5.3	20	2,902	—	3	62	88	153	5.3
東海區	男女計	11	345	—	1	24	2	27	7.8	16	2,176	—	5	188	75	268	12.3	27	2,521	—	6	212	77	295	11.7
	男	11	1,436	—	9	168	19	196	13.6	17	2,434	1	21	296	41	359	14.7	28	3,870	1	30	464	60	555	14.3
	女	11	1,781	—	10	192	21	223	12.5	17	4,610	1	25	484	116	627	13.6	28	6,391	1	36	676	137	850	13.3
近畿區	男女計	9	689	—	1	80	15	96	13.9	32	2,825	—	6	174	53	233	8.2	41	3,514	—	7	254	68	329	9.4
	男	9	730	—	—	77	3	80	11.0	31	3,154	—	6	321	66	393	12.5	40	3,884	—	6	398	69	473	12.2
	女	9	1,419	—	1	157	18	176	12.4	33	5,979	—	12	495	119	626	10.5	42	7,398	—	13	652	137	802	10.8
中國區	男女計	1	26	—	—	3	4	7	26.9	12	747	—	3	86	42	131	17.5	13	773	—	3	89	46	138	17.9
	男	1	112	—	3	18	13	34	30.4	13	2,176	5	9	280	65	359	16.5	14	2,288	5	12	298	78	393	17.2
	女	1	138	—	3	21	17	41	29.7	13	2,923	5	12	366	107	490	16.8	14	3,061	5	15	397	124	531	17.3
四國區	男女計	8	138	—	—	32	21	53	38.4	14	777	—	—	39	25	68	8.8	22	915	—	—	71	50	121	13.2
	男	8	613	—	1	200	67	268	43.7	14	879	—	1	81	41	123	14.0	22	1,492	—	2	281	108	391	26.2
	女	8	751	—	1	232	88	321	42.7	14	1,656	—	1	120	70	191	11.5	22	2,407	—	2	352	158	512	21.3
九州及沖繩區	男女計	5	343	—	2	24	16	42	12.2	36	1,820	3	43	99	102	247	13.6	41	2,163	3	45	123	118	289	13.4
	男	7	591	1	4	22	25	52	8.8	28	4,027	—	15	343	399	757	18.8	35	4,618	1	19	365	424	809	17.5
	女	9	934	1	6	45	41	94	10.1	38	5,847	3	58	442	501	1,004	17.2	47	6,781	4	64	488	542	1,098	16.2
合計	男	45	2,198	—	4	178	82	264	12.0	231	15,479	3	69	859	625	1,556	10.1	276	17,677	3	73	1,037	707	1,820	10.3
	女	47	4,766	2	40	673	255	970	20.4	211	23,501	6	76	2,032	1,062	3,176	13.5	258	28,267	8	116	2,705	1,317	4,146	14.7
	計	49	6,964	2	44	851	337	1,234	17.7	245	38,980	7	145	2,891	1,687	4,732	12.1	294	45,944	11	189	3,742	2,024	5,966	13.0

二・五%にて、同じく兩者の間に大差なし。近畿區は新米使用一〇・五%、古米使用一二・四%にて、新米使用のものがやゝ低率である。中國區は新米使用一六・八%、古米使用二九・七%にて、古米使用に於て相當高率を示してゐる。四國區は新米使用一一・五%、古米使用四二・七%にて、古米使用のものの方が四倍弱の高率を出現してゐる。九州及沖繩區は新米使用一七・二%、古米使用一〇・一%にて、反つて古米使用の方が低率となつてゐる。かくの如く地區別觀察に於て使用主食米の新古と脚氣罹患率の高低が一律に一致してゐないことは、主食米の新古のみが唯一の要因でないことを示すもので、脚氣發生要因の分析研究への將來の努力を示唆するものである。

本章第一節乃至第四節既述の如く、寄宿舎及び共同炊事を有する工場・事業場の主食品性状と脚氣罹患率とに關する調査に諸考察から、主食品の適否は其れを使用する産業勞務者特に寄宿工の脚氣發生率に多大の影響を與へるものであることが確認され、従つて其等工場・事業場に於ける脚氣豫防の實際に當り等閑視せられない重要事項であることを知つた。著者等の用いた制定標準による主食品概評良に該當する主食品は、脚氣豫防の見地より概ね次の如き性状を有すべきことを總括することが出来る。即ち活性度中等度以上の新米にして精白度七分搗以上、胚子殘存率六〇%以上の主食米を使用することが脚氣豫防上必要であると言ひ得る。又、麥を混用する場合主食米が精白米ならば活性度中等以上の加工少きものを四・〇割以上を加ふれば脚氣豫防上有效であると言ふことが出来る。この際特に注意すべきは、活性度微弱なる精白米又は古米を集團營養勞務者に常用させることであつて、脚氣豫防上食餌關係方面のこの不利を補ふため多大の努力を必要とすることとなり、副食物の大改良、ビタミン製品の人工補給等に關して新たなる施策を計畫しなくてはならないこととなる。

第五章 總括並に脚氣豫防施策に就て

甲、總括

昭和十四年度保健施設の一として社會保險局が行ひたる政府管掌健康保險に於ける全國的脚氣調査に關する實施成績第二回報告(詳報)中、主要なる事項並に其れに關する諸考察を摘録すれば概ね次の如くである。

一、本報告發表のため第一回報告以後整理集計したる主要事項は次の三點である。第一は症狀別脚氣罹患率の補正であつて、新たに症狀別脚氣分類規準表を確定して全脚氣調査個人票の操票補正を行ひ、之を詳報として第一回報告に若干の補正を行つた。第二は調査被保險者の年齢別脚氣罹患率の算出であつて、豫防上の必要のため體性、地區、業務別に各歳別脚氣罹患率を集計した。第三は工場主食米と脚氣罹患率との關係に關する調査研究であつて、主食品見本の性狀検査成績を根據として各種脚氣發生要因の探究を行つた。

二、總調査工場・事業場数は五六九個所にて、總検査人員は七一、五二六名(男子三五、〇七三名、女子三六、四五三名)であつた。其の總脚氣罹患人員は、八、七二二名(重症二〇名、中等症三二六名、輕症五、三八二名、潜在性二、九九四名)にて、検査人員に對する罹患率は、全地區平均一二・二%(重症〇・〇三%、中等症〇・五%、輕症七・五%、潜在性四・二%)であつた。これを廳府縣保險課別に見れば、全地區平均より著しく高率なるは愛媛縣保險課(四・五・五%)、岩手縣保險課(三三・六%)、岡山縣保險課(三二・五%)、長崎縣保險課(三一・四%)等で、逆に著しく低率なるは釧路保險出張所(一・〇%)、奈良縣保險課(一・七%)、長野縣保險課(二・二%)、天滿保險出張所(二・九%)、群馬縣保險課(四・一%)、宮崎縣保險課(四・六%)等であつた。

三、體性別脚氣罹患率は、男子九・九%、女子一四・四%にて、女子産業勞務者に於て著しく高率を示し男子の約一・五倍に相當してゐることを知つた。其の年齢階級別傾向は、男子に於ては一三―二〇歳一二・六%、二一―三〇歳九・七%、三一―四〇歳七・四%、四一―五〇歳七・三%、五一―六〇歳七・〇%、(六一歳以上八・六%)とほぼ年齢階級増高と共に罹患率は遞減してゐる。これに反し女子に於ては、一三―二〇歳一四・九%、二一―三〇歳一三・五%、三一―四〇歳一五・一%、四一―五〇歳一三・四%にて男子の如き増高的傾向なく著しく高率のまゝ保持されてゐるが、五一―六〇歳は九・九%、六一歳以上は八・六%と急激に低率を示すに到る。この三一―四〇歳並に四一―五〇歳年齢階級の女子産業勞務者に於て年少者並みの高率脚氣罹患率を示すことは注目し値することであり、其の原因は恐らく職業的活動と家庭的活動との二重負擔に依るものと推論されるところであるが、脚氣豫防の實踐に當り特に留意すべき事項である。

四、症狀別脚氣罹患率を年齢階級別に觀察すれば、重症は、男子に於ては平均値〇・〇三%に對し四一―五〇歳(〇・一%)、三一―四〇歳(〇・〇四%)、二一―三〇歳(〇・〇四%)にて中年者に多く、女子に於ては平均値〇・〇三%に對し二一―三〇歳(〇・一%)、一三―二〇歳(〇・〇二%)にて年少者に多く發生してゐた。中等症は、平均値に於て男子〇・四%、女子〇・五%を示してゐて、年齢階級別には男女共に著しい差異を認め難く全年齡階級に發生してゐるが、幾分男女共に中年者に多發するの傾向を示してゐる。輕症は、平均値に於て男子五・六%、女子九・四%にて女子の方が著しく高率となつてゐる。其の年齢階級別發生狀況は、男子に於ては一三―二〇歳の六・八%を最高として二一―三〇歳五・四%、三一―四〇歳四・四%、四一―五〇歳四・七%、五一―六〇歳四・二%と、六一歳以上の六・八%を除けば年齢階級増高と共に輕度の減少を示してゐるが、女子に於ては三一―四〇歳の一一・〇%を最高として其れ以後は四一―五〇歳九・六%、五一―六〇歳七・五%、六一歳以上七・一%と年齢階級増高と共に遞減し、其れ以前

は二一—三〇歳九・〇%、一三一—二〇歳九・五%と軽く低下してゐる。即ちこの顯症脚氣としての輕症が女子中年者に多發してゐることは注目し得る事項である。潜在性は、平均値男子三・八%、女子四・五%にて女子幾分高く、其の年齢階級別發生狀況は一三一—二〇歳に於て男子五・五%、女子五・〇%にて共に最高率を示し、年齢階級增高と共に遞減して六一歳以上の男子一・八%、女子一・四%となり最低率を示してゐた。従つて潜在性脚氣の豫防に關しては年少者特に一三一—二〇歳の者に留意すべきことを知つた。

五、地區別脚氣罹患率を男女別に觀察すれば、男子に於て全地區平均値九・九%に對し著しく高率なるは、中國區(一四・一%)、四國區(一三・〇%)、九州及沖繩區(一二・七%)、東海區(一一・〇%)にて、逆に著しく低率なるは東山區(五・〇%)、北海道區(五・六%)、北陸區(七・〇%)等にて、女子に於て全地區平均値一四・四%に對し著しく高率なるは四國區(二三・二%)、中國區(一八・七%)、九州及沖繩區(一六・八%)、東北區(一六・六%)にて、逆に著しく低率なるは東山區(五・六%)、北海道區(九・六%)、近畿區(一二・四%)等であつて、概ね男女共に溫暖地區に多發し寒冷地區に寡發するの傾向を示してゐた。

六、症狀別脚氣罹患狀況を地區別に觀察すれば、重症は、男子總數一〇名が全部九州及沖繩區に集中し、女子總數一〇名(〇・〇三%)は東北區二名、東海區一名、中國區六名、九州區一名とほぼ全地區に散發してゐた。中等症は、男子の平均値〇・四%に對し高率を示すのは九州及沖繩區(一・六%)、中國區(〇・五%)にて、女子の平均値〇・五%に對し高率を示すのは東北區(一・一%)、中國區(〇・九%)、東海區(〇・七%)にて、男女共にほぼ重症の發生狀況に近似してゐる。輕症は、男子の平均値五・六%に對し高率なるは東海區(八・一%)、中國區(八・一%)、四國區(八・〇%)、近畿區(六・六%)等にて、逆に著しく低率なるは東山區(〇・八%)、北海道區(二・六%)、北陸區(二・八%)、東北區(三・六%)等であつて、女子の平均値九・四%に對し高率なるは四國區(一六・七%)、中國區(一三・六%)、東海區(一一・六%)、近畿區(一〇・〇%)等にして、逆に著しく低率なるは東山區(二・四%)、北海道區(六・一%)、北陸區(七・六%)等であり、顯症脚氣としての輕症脚氣の出現が地區別總脚氣發生率の多寡とほぼ平行してゐることを知つた。潜在性は、男子の平均値三・八%に對し高率なるは中國區(五・五%)、九州及沖繩區(五・三%)、關東區(五・一%)、四國區(五・〇%)等にて、逆に著しく低率なるは近畿區(一・九%)、北海道區(二・七%)、東海區(二・七%)等にて、女子の平均値四・五%に對し高率なるは九州及沖繩區(八・三%)、東北區(六・七%)、四國區(六・二%)、北陸區(五・七%)等にて反對に著しく低率なるは東海區(一・七%)、近畿區(一七%)、北海道區(三・一%)、東山區(三・一%)等にて、男女に依つて地區的に多少の特殊性は認め得られるが、輕症發生の如く明確な特徴を示してゐなかつた。

七、業務別脚氣罹患率を性別に觀察すれば、男子の平均値九・九%に對し高率を示すのは鑛山(一一・六%)、機械器具工場(一〇・七%)、化學工場(十・三%)にて、逆に低率を示すのは特別工場(六・三%)、雜工場(七・七%)、其の他の事業(八・二%)、食物工場(八・五%)、染織工場(八・七%)の順序であつて、重労働産業部門に多發の傾向を示してゐる。女子の平均値一四・四%に對し高率を示すは、其の他の事業(特にバス事業)(一七・四%)、飲食物工場(一六・四%)、雜工場(一六・一%)、染織工場(一四・五%)にて、逆に低率を示すのは特別工場(四・八%)、化學工場(二一・五%)、鑛山(一三・四%)、機械器具工場(一三・八%)であつて、男子と異り輕労働に屬する平和産業部門に多發の傾向を示してゐるが、特別工場を除けば全産業部門に於て女子の脚氣發生率が男子のそれより著しく高率なることを知つた。

八、症狀別脚氣罹患狀況を業務別に觀察すれば、重症は、男子總數一〇名(〇・〇三%)が全部鑛山特に福岡縣及沖繩縣の石炭山に屬する中年者に集中されてゐることは注目し得る。女子の重症者一〇名(〇・〇三%)は各地區の製

絲業、金屬山、織物業、雜業等に散發し、主に年少者に多發の傾向を示してゐた、中等症は、男子の平均値〇・四％に對し著しく高率を示すのは鑛山(二・六％)、逆に低率を示すのは染織工場(〇・一％)、機械器具工場(〇・二％)、飲食物工場(〇・二％)、雜工場(〇・三％)、其の他の事業(〇・三％)等であり、女子の平均値〇・五％に對し高率なるは鑛山(一・八％)、其の他の事業(一・二％)、雜工場(一・〇％)、飲食物工場(〇・七％)等にて、逆に低率を示すのは染織工場(〇・四％)、機械器具工場(〇・四％)であつて、男女共に鑛山が高率なると女子に於てバス事業・雜工場等に於て高率を示してゐることは注目し得る。輕症は、男子の平均値五・六％に對し高率を示すは機械器具工場(六・八％)のみにて、逆に低率を示すのは飲食物工場(三・四％)、其の他の事業(四・六％)、染織工場(四・七％)等にて、重症並に中等症の業務別多發狀況と相當趣を異にしてゐる。女子の平均値九・四％に對し高率なるは雜工場(一〇・八％)、其の他の事業(一〇・一％)、機械器具工場(九・七％)、飲食物工場(九・六％)にて、逆に低率なるは鑛山(八・二％)、化學工場(八・五％)にて、總脚氣罹患率の多寡とほぼ平行して多發してゐる。潜在性は、男子の平均値三・八％より高率なるは飲食物工場(四・八％)、化學工場(四・四％)で爾餘の業務はほぼ平均値に近く、女子の平均値四・五より高率なるは飲食物工場(六・一％)、其の他の事業(六・〇％)、染織工場(四・八％)にて、逆に低率なるは鑛山(三・〇％)、化學工場(三・四％)、機械器具工場(三・七％)等であつて、男女に依つて多少の差異はあるが飲食物工場、化學工場、バス事業等に於て多發の傾向を示してゐた。

九、各歳別脚氣罹患率を其の移動平均曲線と照合しつゝ體性別に觀察すれば、男子は一七―二〇歳の一三・三％を頂點とする年少期の山が前に急に後へ緩なる曲線を以て年齢増減と共に罹患率が遞減するの様相を示してゐるが、女子は一八歳の一七・四％を頂點とする年少期の山が二六歳頃に一度九・七％位の谷を作り、再び三一歳頃に一八・一％の山を作りそのまゝ多少上下しつゝ臺地を形成して五〇歳頃迄続き、其の後は年齢増加と共に遞減する像を描いてゐる。従つて男子に比較して女子の特徴は年少期の山の著しく高く且つ急峻なること、中年期に高い臺地を有することである。

一〇、主食品見本検査工場・事業場二九四個所より蒐集したる見本總數は、米三一〇種、麥一〇六種、計四一六種にて、其の炊事關係は直管二四四個所(八三・〇％)、共同炊事利用三四個所(一一・六％)、請負制一六個所(五・四％)であつた。

其の主食品の種類は、米のみ使用するもの一八六個所(六三・三％)、米麥混合使用のもの一〇八個所(三六・七％)にて其の混合割合は平均二・三割(最大六・〇割、最小〇・六割)であつて、更に使用米の新古別は新米二四五個所(八三・三％)、古米四九個所(一六・七％)であつた。

混砂の有無は、混砂米三六種(一一・六％)、無砂米二七四種(八八・四％)にて無砂米の普及良なることを知り得た。米の活性度は中等度二一〇種(六七・七％)、弱乃至微弱一〇〇種(三二・三％)にて、判定「中の上」を示し活性度割合高き米は不完全搗精の新米に多く、活性度微弱を示す米は混砂精白の古米に多きを見た。麥の活性度は強一種(一・〇％)、中等度五六種(五二・八％)、弱乃至微弱四九種(四六・二％)にて、活性度高きものは餘り加工せざる丸麥に多く、活性度微弱なるものは一合重量の軽い押麥に多かつた。

米の精白度は、玄米一種(〇・三％)、五―七分搗米四六種(一四・八％)、八―九分搗米一四四種(四六・五％)、精白米一一九種(三八・四％)にて、脚氣豫防上適當と認められる精白度のものは僅かに一五％に過ぎず、又、米の胚子残存率は、平均二一・五％(玄米を除き最大九二・八％、最少〇％)にて、一般優良胚芽米(胚子残存率六〇％以上)と認むべき七分乃至五分搗米は僅かに二六種(八・四％)に過ぎないことを知つた。

一一、脚氣豫防の見地より判定せる工場・事業場の主食品概評は、良二六個所(八・八％)、適三四個所(一一・六％)、不適二三四個所(七九・六％)にて、食品検査工場・事業場の大約八割が不適な主食品を使用してゐる。其の不

適工場・事業場の地区別分布は、北海道區（一〇〇％）、東山區（一〇〇％）、四國區（九五・五％）、東海區（八九・三％）、中國區（八五・八％）、近畿區（八三・三％）、九州及沖繩區（八三・〇％）にて平均値（七九・六％）より悪く、東北區（七七・〇％）、關東區（六四・〇％）、北陸區（五七・二％）は逆に平均値より良好であつた。

一三、主食品検査工場・事業場の主食品の適否と脚氣罹患率との關係を男女計平均値にて通覽すれば、脚氣罹患率は良のもの九・六％、適のもの一二・七％、不適のもの一三・四％にて、總括的に主食品概評の良なる工場事業場に於て著しく低率なるを見る。これを更に男女別に觀察してもほぼ近似の成績を示してゐるので、男女計平均値にて地區別に觀察して見ると、二、三の地區を除けば全般的に前述の傾向を明白に示してゐる。

一四、任意抽出工場四三個所に就いて主食米の適否と脚氣罹患率に關し通勤關係別に觀察すれば、脚氣罹患率は通勤工八・七％、寄宿工一六・三％にて、總括的に寄宿工は通勤工より約一・九倍高率であることを知つた。更に前述寄宿工の脚氣罹患率を主食品概評別に觀察すれば、良工場一〇・六％、適工場一四・六％、不適工場二一・七％にて、主食品概評良なる工場は脚氣罹患率著しく低く適のもの約三分の二、不適なるもの約二分の一以下であることを知り得た。これ等の關係は業務別に見てもほぼ全産業部門に互り同一傾向を示してゐるが、尙通勤工に於ても寄宿工とほぼ同一の傾向を示してゐたことは興味ある事項である。

一五、主食米の新古と脚氣罹患率との關係を主食品検査二九四工場・事業場に就いて觀察すれば、脚氣罹患率は新米使用のもの一二・一％、古米使用のもの一七・七％にて、總括的に新米使用の方が相當低率なるを知る。更に男女別にはこの傾向は女子に於て顯著でつり、地區別には二、三地區を除けば概ね全般的に同一傾向を示してゐることを知り得た。

乙、脚氣豫防施策に就て

前述の健康保険に於ける全國的脚氣調査成績（第二回報告）並に第一回報告其他に於て發表せる脚氣豫防に關する各種調査成績等より得たる諸考察を根據とし、健康保険に於ける脚氣豫防に關する將來の施策に就いて若干の記述を試みれば次の如くである。

一、脚氣豫防の目標

健康保険に於ける脚氣豫防の主要目標は、昭和十四年度脚氣調査成績より推論して、先づ第一に二五歳未満の女子勞務者特に寄宿工に置くべきことを知り得る。第二は二五歳未満の男子勞務者特に寄宿工、第三は二六・五〇歳の女子勞務者、第四は其の他の一般通勤工の順となつて来る。

其の時、特に脚氣反復罹患者に最低血壓下降者乃至潜在性脚氣罹患者に對しては、早期に特別の注意を拂ひ豫防の効果を全からしめることが大切である。

更に氣候地區的觀察よりして、暖國の被保險者に對しては豫防上特に力を用ふべきことを知り得た。

又、業務的には、男子に於ては鑛山、機械器具工場、化學工場等に重點を置き、女子に於ては其の他の事業（特に運輸業）、飲食物工場、雜工場、染織工場等に力を注ぐべきことを教示してゐる。

二、脚氣豫防の方法

脚氣豫防の方法としては、先づビタミンB₁の適當なる補給が最も根本的であることは論を俟たないところである。其の補給の方法としては、日常食品による自然補給と特殊ビタミン製品による人工補給との二方面がある。

ビタミンB₁の自然補給としては、主食米による補給が經濟的にも實踐的にも最も重要且つ基本的なものである。前述

の各種調査資料より推論すれば、主食米にて脚氣豫防を企圖するならば少くとも次の規準に従はねばならないと言ひ得る。

即ち、主食米は活性度中等度以上の新米にして、精白度七分搗以上にて且つ胚子残存率六〇%以上のものを使用することが必要である。若し麥を混合する場合には、米が精白米であれば活性度中等度以上の加工少きものを四・〇割以上加へることが必要である。

副食物にビタミンB₁の多量含有されてゐるものを配合することも自然補給としては、大切なことで工場食改善に當つて十分留意すべきことであるが、價格や材料等の關係で完全を期し難い場合が相當多いから注意を要する。

ビタミンB₁の人工補給は、精白米、不完全搗精古米、精白外米等の使用を餘儀なくされる場合の非常手段と考へべきものである。補給ビタミンB₁製品としては、ビタミンB₁結晶、ビタミンB₁劑、糠加工品、胚芽乳等があるが、經費、效力、使用方法等の點から見ればビタミンB₁結晶の内服に及ぶものはないと考へられる。ビタミンB₁結晶の内服量と服用期間に關して今迄調査研究したところでは、一日〇・五珎（成人一日のビタミンB₁需要量に相當する）、一ヶ月間（概ね六―七月頃）が適當と考へてゐる。尙ほ一、二服用上の變法に就いて研究調査を行つてゐるが未だ發表の時期に到つてゐない。

最後に脚氣豫防の方法として、前述のビタミンB₁の補給以外に、**勞働量の軽減、過勞の防止、勞働氣候の快適化、職場住居の乾燥等の問題が残つてゐるが、若し今後の調査研究に依つて明確に豫防上有益な事實を握り得たならば、其の都度適當な方法で報告して關係者諸氏の参考に供したいと思つてゐる。**

（終）